

巻頭言

十勝教育研究所
所長

横山 利幸



ウェルビーイングのために

現在、AIやIoTなどの様々な技術革新に伴い、社会構造が大きく変容するSociety 5.0の時代の到来を迎えています。そうした中、ここ十勝

実・発展させていくことが、これから求められる十勝教育の姿となっています。

においても、将来にわたって持続可能な発展を果たしていくために、地域社会を支え、創造していく子どもたちの育成を図っていくことがますます大切になっています。

物事を俯瞰的に見ていく中で、これからの社会全体の在り方を捉え、未来社会を創造していくことができる子どもたち一人一人の質の高い学びを実現していくことが重要です。これまで積み上げてきた本校の教育活動に自信をもって取り組み、それをより一層充

十勝教育研究所は、十勝管内教育委員会連絡協議会が設置・運営する公的機関として、管内教育の充実・発展に尽くすことを使命としています。今年度は、当研究所が設立されてから74年目となり、これまでの歴史の重みを受け止めながら、今後も最新の教育研究を十勝の教育の強みへとつなげていきたいと考えます。

そのため、調査研究や研修活動、資料提供等を鋭意進め、その成果を十勝の教育現場に着実に届け、教職員一人一人の日々の実践に響いていくように

努めてまいります。

(1)実践に基づいた調査研究による理論と実践の環流

現在の十勝教育の実態から、今求められている教育課題を明確にし、日常の教育活動における実践検証を進めていきます。そして、その成果が各学校・学年・学級まで行き届き、子どもたちと真摯に向き合っている一人一人の教職員に響くよう、理論と実践の環流を図っていきます。

(2)魅力的で誰もが手にすることができるよう価値ある実践研究

国の第4期教育振興基本計画（2023～2027年）では、基本的な方針の一つに「教育DXの推進」が盛り込まれています。「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」の実現のため、デジタル化を力強く進め、子どもたちの未来を見据えた実践研究を進めていきます。

(3)十勝教育のブランドの継承・発展に資する業務推進

「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、「主体的・対話的で深い学

び」の視点から授業改善に努め、教育効果を高めるカリキュラム・マネジメントを管内全体で進め、包括的な学校改善に取り組むことが大切です。そのため、当研究所に求められる役割と責任を誠実に果たしていきます。

子どもたちが社会で活躍する2040年代を展望するとき、学校教育が果たすべき役割はこれまで以上に大きいと言えます。VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代だからこそ、「令和の日本型学校教育」は持続可能な形で継承・発展されなければいけません。10年先、20年先を見据え、今ある学びの姿をデザインしていくことが重要なのです。

多様性の社会が進展する中、子どもたち一人一人の教育的ニーズに対応し、個々の可能性を伸ばし、誰一人として取り残されない教育を実現していくことが時代の要請です。十勝の全ての学校が子どもたち、教職員にとってウェルビーイングを高め、実現できる場となるよう、十勝教育研究所も共に歩んでまいります。